

東京ニューシティ管弦楽団

音楽監督・常任指揮者

内藤 彰

コンサートマスター

藤田 めぐみ

インスペクター

金岡 秀典

山川 奈緒子

ライブラリアン

上村 雅英

事務局

渡辺 晶子

上澤 あい子

青木 勝弘

Violins

◎藤田 めぐみ

○上原 まさみ

荒巻 泉

岡田 邦子

小澤 郁子

小澤 薫

小野 久美子

甲斐 史子

菊池 真理子

小林 清美

小宮山 裕子

櫻井 志保

佐藤 美佐子

鈴木 順子

高階 久美子

綱木 郁

富山 ゆりえ

中村 朱見

蛭川 いづみ

萩野 恵美子

春山 笙子

宮林 陽子

宮本 恵

安井 優子

山江 洋子

Violas

○桜井 多美子

安達 いづみ

大木 裕子

杉本 伸陽

高瀬 有美

竹鼻 江美子

松田 美奈子

光行 澄子

Violoncellos

○斎藤 章一

青嶋 直樹

渥見 光太郎

五十嵐 大

大島 純

岡田 一樹

仙石 由紀子

富成 倫子

Double-basses

○金岡 秀典

江上 靖

河原田 潤

斉藤 正樹

徳高 宏行

本間 園子

Flutes

井ノ上 洋

内山 豊美

窪岡 しげき

Oboes

徳田 振作

井上 恵子

伊藤 博

Clarinets

西尾 郁子

黒井 理恵

飯塚 宏孝

Alto Saxophone

工藤 俊一

Bassoons

藤田 旬

斎藤 美和子

松里 俊明

Horns

小川 正毅

岡村 陽

松浦 光男

月原 義行

上村 雅英

Trumpets

元井 勤

中西 清一

古田 賢司

Trombones

白濱 俊宏

林 哲也

榊原 徹

Euphonium

長谷部 光俊

Tuba

松下 晃一

Timpani

米山 明

Percussion

尾花 章子

堀尾 尚男

平子 久江

横田 大司

辻本 洋一

Harp

井上 栄利加

Celesta

島田 玲子

Tokyo New City Orchestra

東京ニューシティ管弦楽団

第11回定期演奏会

1998年3月22日(日) 午後2時30分開演

北とぴあ さくらホール

主催●東京ニューシティ管弦楽団

共催●(財)北区文化振興財団

東京ニューシティ管弦楽団
第12回定期演奏会

1998年9月20日(日)

午後2時30分

北とぴあ さくらホール

指揮／内藤 彰

共演／東京合唱協会

Program

リヒャルト・シュトラウス
交響詩《ドン・ファン》作品20

チャイコフスキー
ピアノ協奏曲第一番 変口短調作品23

INTERMISSION

ムソルグスキー＝ラヴェル編曲
組曲《展覧会の絵》

リヒャルト・シュトラウス (1864～1949)

交響詩《ドン・ファン》作品20

作曲:1887～88年 初演:1889年11月、ワイマール宮廷管弦楽団。指揮は作曲家自身。

東京ニューシティ管弦楽団第11回定期演奏会は、ドイツ・ロマン派最後の巨匠R・シュトラウスが24歳の時に編み出した素晴らしい交響詩で幕をあけます。

タクトが振り下ろされた瞬間から、情熱かられた響き、まばゆいばかりの色彩感が疾走し、ほどなく官能性を帯びた楽想が漂う。

開演をこれほど劇的に彩る作品もそうはないでしょう。南ドイツの故郷ミュンヘンでドイツの古典／ロマン派音楽をみっちり学び、20歳の頃からマイニンゲンやパイロイトでリストの交響詩、ワーグナーの楽劇に魅了されたR・シュトラウス。彼は、指揮者としての豊富な経験を生かしながら、出世作となる《ドン・ファン》を完成させたのです。

オーストリアの詩人レーナウ(1802～50)の叙事詩《ドン・ファン》から靈感を受けたこの傑作は、19世紀末まで続くR・シュトラウスの交響詩創作の出発点を飾る音楽としても重要で、壮麗なオーケストレーション(管弦楽法)が聴きてを捉えて離しません。一方、きらびやかな音楽に寄り添う独特の諦観も大いなる魅力です。

華麗な女性遍歴と地獄落ちで知られるドン・

東京ニューシティ管弦楽団 The Tokyo New City Orchestra



東京ニューシティ管弦楽団は、1990年、音楽監督、常任指揮者に内藤彰を擁し設立された。定期演奏会の他、名曲コンサート、協奏曲・オペラ・バレエの伴奏、レコーディングなど幅広く活躍。

特にオペラの分野では評価が高く、二期会、藤原歌劇団の他、レナータ・スコット、アルフレード・クラウス、ヘルマン・プライ、カーティア・リッチャレリ、マリエッラ・デビエーア、マリア・キアラ、渡辺葉子等世界で活躍するオペラ歌手との共演も多く、聴衆や批評家のみならず、世界の一流オーケストラと共演している彼らからも、絶讃の言葉を贈られた。

バレエでは、国内のバレエ団の他、英国パーミンガムロイヤルバレエ団、ロシア国立レニングラードバレエ団等海外からのバレエ団の日本公演でも大変高い評価を得ており、今後も内外のバレエ団の公演がめじろ押しである。

また、桂三枝、三枝成彰、ケント・ギルバート、マリ・クリスティーン等を迎えてのファミリーコンサートも、大変評判が良く、多くの方から親しまれている。

メンバー個人個人の實力はもちろん、それぞれの温かい人間性も共演の指揮者、ソリストから大変高く評価されており、また、一切の無駄を省いた新しいオーケストラの運営方針もユニークな発展を見せており、最近その活動が各方面から注目されている。

平成8年度より、(社)日本クラシック音楽マネジメント協会に加盟し、東京第10番目のオーケストラとして今後の益々充実した活動が期待されている。

内藤 彰(指揮) Akira Naito



名古屋大学理学部卒業。在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科(指揮専攻)にて、小澤征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏他に師事し、修了後、(社)山形交響楽団の専属指揮者を3年間務める。

これまでに新日本フィル、東フィル、東響、新星日響、シテイフィル、九響、名フィル他、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。シンフォニーはもちろん、オペラ・バレエの分野でも、その音楽性とテクニックは聴衆の心からの共感と、共演者の絶大なる信頼を得ている。

海外では、1991年旧ユーゴスラヴィアを代表するベオグラードフィルハーモニーを指揮し好評を博した。また、1992年には、モスクワ音楽院大ホールにて、モスクワ交響楽団を指揮し、最初のステージから満員の聴衆の5度のカーテンコールを受け、多くの楽員たちからもロシア音楽の魂を日本人から教えられたと絶賛された。1996年5月には、ロシアの国立ヴァローニシュ歌劇場にて、「セビリアの理髪師」を指揮し、絶大なる賞讃を受けた。昨年5月には、ベラルーシ国立歌劇場にて「蝶々夫人」を指揮し、その成功により、今後も同歌劇場から定期的な客演が要請されている。

現在、東京ニューシティ管弦楽団、及び、プロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督、常任指揮者。日本指揮者協会幹事。

イゴール・オロヴニコフ(ピアノ) Igor Olovnikov



1954年生まれの内藤・オロヴニコフは、著名な作曲家を父に、そして母は歌手という恵まれた環境に育った。幼少期より音楽的な才能は注目を集め、故郷ミンスクでは「天才」の誉れ高く、わずか9歳の時にソロ・リサイタル、11歳でオーケストラとのコンチェルトデビュー、16歳で初の国内コンクール優勝、17歳でスメタナ国際コンクール2位を受賞。その後モスクワ音楽院に入学を許可され、ピアノをY.フリエール教授に、オルガンをL.ロイズマン教授に師事。大学院では、M.ヴァスクレゼンスキー教授の下で研鑽を積んだ。オロヴニコフは、努力家として知られており、Y.フリエールは、「オロヴニコフに、ショパンのバラードを1つ与えると、彼は4曲全部仕上げた。」と彼の努力家ぶりに舌を巻いた。大学院卒業後は、コンサートピアニストとしての活動の傍ら、後進の指導にもあたっている。バッハの鍵盤作品の全曲公開リサイタルやベートーベンなど、ドイツ音楽をレパートリーの中心に据えているオロヴニコフではあるが、数多い歌曲やオーケストラのピアノ編曲、ピアノ楽譜の改訂、編纂など幅広く活躍し、その才能をフルに発揮している。ミンスク国際ピアノコンクール審査員長、ツペターエフ国際ピアノコンクール審査員長、ベラルーシ・ピアノ教育連盟副会長。